

## 行政視察報告書

委員会名（会派名）	市民厚生常任委員会	報告者	樋浦、宮路
視察日程	令和元年10月8日～10日		
調査事項 及び 視察地	① 兵庫県加東市 手話言語条例に基づく取り組みについて ② 京都府亀岡市 マイナンバーカードの普及促進・活用の取り組みについて ③ 京都府京都市 風伝館 — アミタミュージアム視察 ④ 大阪府松原市 ふれあい収集（ごみ出し支援）事業について		
参加議員（委員）	樋浦 恵美、宮路 敏裕、山崎 雅男、塙 豊、渡邊 広宣、丸山 吉朗		
①	<p><b>【調査目的・内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手話言語条例を近畿圏で初めて制定されたが、条例制定に至った経緯について</li> <li>・条例を推進するための具体的な施策について</li> <li>・施策を推進していく中での課題について</li> <li>・今後の展望や展開について</li> </ul> <p><b>【所感】</b></p> <p>加東市では、平成26年6月に兵庫県青年討論集会在開催され、来賓として出席した市長が、視覚障害者協会の会長から「手話言語条例」の必要性の話を聞き、市長提案で議会に提出、全会一致で条例制定が決定した。</p> <p>「手話が言語であること」の啓発、「視覚障害」についての理解を広めるために、パンフレットの作成・配布、市独自の講座の開催、テキストの作成、コミュニケーション支援カードの作成・配布など、様々な施策を展開している。</p> <p>施策のほとんどを設置手話通訳士が担っており、平成30年に設置手話通訳士が不在になった時に施策の推進が困難になった。条例を制定して4年で78講座、延べ1,380人が手話を学んだが、学んだ方々をどのようにしてつなぎ留めておくかが課題であるということであった。</p> <p>燕市議会9月定例会で「燕市手話言語の普及等の推進に関する条例」が可決、10月1日から施行された。今後、燕市としてどう取り組んでいかなければならないのか、参考となる視察となった。</p>		
②	<p><b>【調査目的・内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカードの交付状況について</li> <li>・証明書コンビニ交付サービスの利用状況について</li> <li>・マイナンバーカードの交付促進のための取り組み及びその成果について</li> <li>・京都・亀岡ポイント（自治体ポイント）を導入したことによる効果について</li> </ul> <p><b>【所感】</b></p> <p>燕市におけるマイナンバーカードの交付状況は、進んでいないのが現状である。</p> <p>亀岡市の様々な取り組みを伺い、住民票の写しや印鑑登録証明書のコンビニ交付など、参考になる部分もあった。</p> <p>どの自治体においても、課題はあるものだとことを実感した。</p>		

**【調査目的・内容】**

- ・リサイクル事業、環境問題、社会課題等に関する取り組みについて

**【所感】**

風伝館—アマタミュージアムは、リサイクル社会の推進により、地球環境を保全していく取り組みをはじめ、社会の様々な課題を解決していく情報発信を行い、その賛同者が集うセンターとして、築約150年の古民家を利活用した建物の中で運営している。

- ③ 館内には、魚の呼吸と水草の光合成、バクテリアの分解作用を再現した「調和水槽」や古い農作業農具の展示、環境問題など各種研修に使われる研修室があり、無料で貸し出すことなどで社会貢献している。

産業廃棄物の再資源化などを支援する事業を展開するアマタグループの支援で運営しているが、全国の様々な企業とも連携して、リサイクル社会の進展を目指している。

現代は、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代といわれる。行政の課題として、ごみの減量化や資源ごみの回収などの促進もその一つであるが、風伝館のような市民や企業の取り組みの視点を持つことは、本市においても市民の共感と社会参加に結びついていくのではないかという可能性を感じた。

**【調査目的・内容】**

- ・ふれあい収集（ごみ出し支援）事業について
- ・始めた経緯や内容、効果や課題について

**【所感】**

④ 大阪府松原市では、家庭ごみを収集場所まで出すことが困難な高齢者又は身体の不自由な一人暮らし世帯を対象に、申請によって門前・玄関先まで収集に伺う「ふれあい収集」事業を平成17年から実施している。これは、狭隘な道路のため収集車が回れない地域で、ごみ出しが困難な世帯の利便性を図るためである。当初は事業の周知のため、チラシのほか、民生委員や地域包括支援センター職員が苦労しながら希望者を募ってきた。

現在、利用者は112世帯であるが、高齢者世帯のごみ収集がスムーズになったことや、社会福祉協議会とも連携して、ごみが出ていない世帯の見守りチェックをしたり、困りごと相談を通じてコミュニティソーシャルワーカーと連携し、問題解決に結びついた事例などの効果がみられる。

現状は玄関先にごみが出されていない場合、収集人が家屋まで入ることはしていないが、安否確認の必要性などが検討課題であるとのことである。

今後の高齢化社会の進展を考えれば、本市においても、高齢者支援の一環として大事な課題であると感じた。

【視察の様子】

① 加東市



② 亀岡市



③ 風伝館 - アミタミュージアム



【視察の様子】

④ 松原市

